

国土学事始め



大石久和

京都大学大学院
特命教授

不思議の国・日本

世界の経済が大変な混乱に陥りはじめています。この20年間まったく経済成長せず、そのため税収の伸びがほぼゼロであった日本から眺めると、世界のどの国でも同様

していますが、20年のスパンで見ると1・5〜2倍程度に経済成長していたのです。中国の急成長は言うまでもありません。経済の成長には、道路など

演説のなかで「21世紀のビジネスと経済に見合ったインフラ整備が必要だ」という意味の発言を繰り返しています。イギリスの前首相ブレア氏も現首相のキャメロン氏も

「インフラは現代生活を支える経済戦略の重要な要素で後回しにできない課題ではない」との認識を示しています。ドイツのメルケル首相たちは三党連立合意文書のなかで「ドイツの競争力を保障するものは、質の高い交通インフラである」と記しています。このような発言は、フランスの首脳もイタリアの首脳も繰り返して行っています。昨年イタリアの若きマッテオ・レニツィ首相は来日中に、「インフラへの投資は重要である。予算が制約されていても、インフラへの投資は長期的な経済成長に貢献するからだ」と述べましたが、まったく紹介されませんでしたから、日本人は誰も知りません。世界と日本の首脳たちのインフラ認識の違いには愕然とするものがあります。

だったように感じる人も多いと思いますが、実はそうではなかったのです。

この間アメリカの経済は2・5〜3倍程度の伸びを示し、そのため税収も大幅に伸びています。EUも近年は苦労を

のインフラの充実が欠かせないのですが、実に不思議なことには《日本の首脳（実は日本の経済学者もですが）だけがインフラ整備の重要性を説いたことがない》のです。

アメリカ大統領は、教書や

アメリカ大統領は、教書や

アメリカ大統領は、教書や

アメリカ大統領は、教書や

アメリカ大統領は、教書や